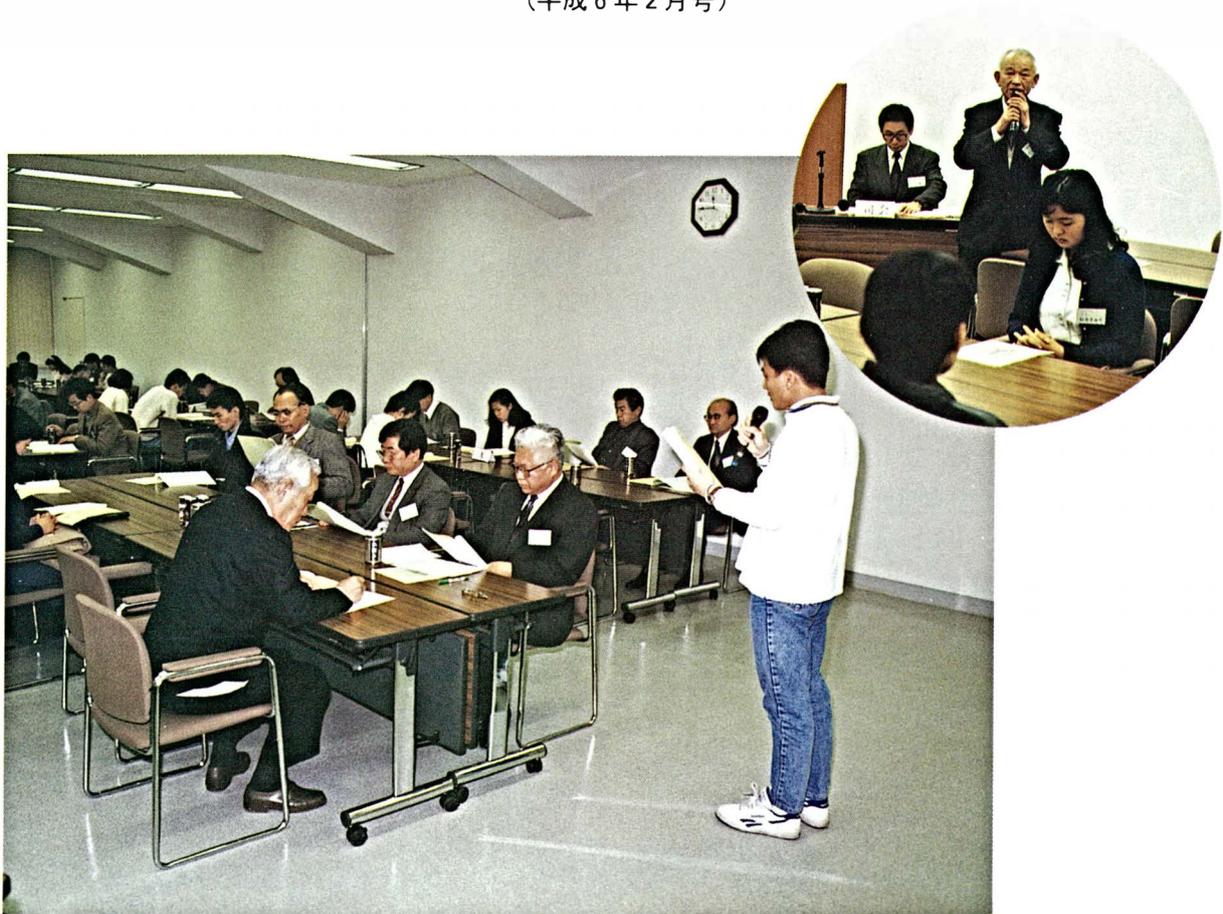




(題字 小黒千足 学長)

第350号
(平成6年2月号)



▲ 町内会役員と活発に意見交換を行う経済学部外国人留学生たち
(於 黒田講堂会議室)

目 次

学 内 諸 報	3	学 事	10
◆ 経済学部外国人留学生と指導教官等 との懇談会	3	◆ 富山大学入学者個別学力検査 (前期日程・A日程)が実施される	11
◆ 「就職に関するガイダンス」	3	◆ 平成6年度富山大学者選抜私費海国人留学生 入学志願者数	12
◆ 厚生補導業務研修会開催	4	◆ 平成6年度富山大学国際交流事業基金 による各種事業の採択	14
◆ 学術講演会を開催	4	◆ 外国人来訪者	14
◆ 第1回留学生によるリレートーク	5	寄稿 (海外レポート)	15
◆ 新附属図書館長等の選出・再選	5	「モントリオールに滞在して」 —— 工学部助教授 高 瀬 均 ——	
◆ 退官記念最終講義	8	関 係 法 令	17
海外渡航者	9	職 員 消 息	17
◆ 平成6年度文部省在外研究員 派遣予定者の決定	9	計 報	18
◆ 平成6年度文部省内地研究員 派遣者の決定	9	諸 会 議	19
人 事 異 動	10	主 要 行 事	20



学 内 諸 報

経済学部外国人留学生と指導教官等との懇談会

－ 町内会役員やアパート組合長さんたちと －

去る2月21日（月）黒田講堂会議室において外国人留学生と学部指導教官等との懇談会を開催しました。

当日は中国、マレーシア、台湾など6カ国の外国人留学生と関係教職員、チューターのほか今回初めて町内会役員、アパート組合長など地域住民の代表も加え、約70名の参加がありました。

懇談会は、吉原学部長の挨拶にはじまり、留学生指導教官等から「運転免許と自動車保険」、「留学生の健康保険、住宅総合保険」などの日常生活上の留意事項他「修士課程等を目指す留学生に対する注意」さらに、「日本語能力の増進」等についての要請もされました。

続いて、自己紹介がなされ、昼食を囲み和やかに懇談が行われました。スピーチでは、留学生から「友達ができず孤独だ」「円高で家賃が高く、留学生会館の設置を望む」等の要望がだされました。また、住民側からは「助けを求めるだけでなく、ルールを守り地域に貢献する小さな奉仕が留学生全体の評価を高める」等と協調性



▲ 地域住民代表と意見を交わす外国人留学生

を求める要望がありました。

今回の懇談会は、留学生と教職員及び地域住民代表らが腹藏なく話してより一層の相互理解を深め、初期の成果を収めることができ、有意義なものとなりました。

「就職に関するガイダンス」

－ 平成6年度卒業予定者 －

去る2月22日（火）午後1時30分から経済学部201番教室において経済学部3年生を対象に「就職に関するガイダンス」が開催され、約270名の学生が出席しました。

当日は、吉原学部長の挨拶に続いて講演があり、最後に経済学部学生係から就職手続き等について詳細な説明が行われました。

最近の景気低迷により平成5年度の求人倍率は3年連続の低下が報じられ、来年度の就職活動も早まる傾向にあります。経済学部ではそれに対応するため、教育の一環として例年より早くガイダンスを実施したもので、参加学生からは活発な質疑や、メモを取るなど熱のこもったガイダンスとなりました。

記

〔講演者〕

女性の就労について

労働省 富山婦人少年室長

北川 恭子

就職対策について

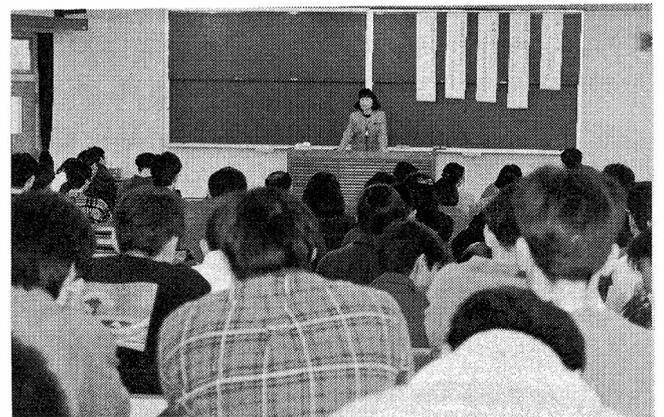
居林 次雄 学部職業補導副委員長

公務員試験受験について

小原 久治（経済学部教授）

民間企業を志望する人へ

伊藤 格夫（経済学部教授）



▲ 経済学部201番教室「就職に関するガイダンス」

厚生補導業務研修会開催

— 学生部 —

厚生補導業務に従事する職員の資質向上を図るため、標記研修会（講演会）が去る2月16日（水）及び同月22日（火）の両日にわたり黒田講堂会議室において開催されました。

2月16日は、事務電算化を積極的に進めている九州工業大学から、学生部次長入江 求氏及び電算化推進担当者の工学部学務係長 福原英充氏を迎え、「厚生補導関係業務に係る事務電算化の取組みについて」と題し講演をいただきました。現在本学は教務事務等の電算化を図るため鋭意その準備を進めているところであり、先進大学の現状及び電算化を進めるうえでのノウ・ハウについて知り得たことは今後の業務遂行に弾みがつくものと期待されます。

2月22日は、「教官と厚生補導関係業務担当職員の役割について」ということで、講師には、国立江田島青年の家所長磯脇和平氏を迎え、同氏のこれまでの経験、厚生補導業務に対する考え方及び同業務を遂行するうえでの心構え等を折り合わせた話を聞くことができました。

両講演とも、本学厚生補導業務を遂行するうえで直面又は今後ますますその重要性が問われる問題だけに、厚生補導を担当する約40人の参加者が熱心に講師の話に耳を傾け、講演後の質疑にも熱が入り大変有意義なものとなりました。



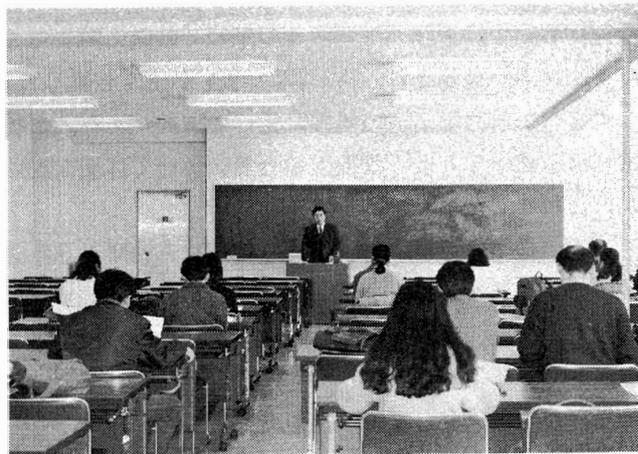
▲ 事務電算化についてのノウ・ハウについて耳を傾ける事務職員

学 術 講 演 会 を 開 催

— 「詩歌に読む日本人の感性」 —

去る2月4日（金）人文学部語学文学棟104番講義室において「詩歌に読む日本人の感性」と題して、元東京大学大学院比較文学・比較文化学科主任教授で現在国際日本文化研究センター教授 芳賀 徹氏による学術講演会が開催されました。

日本の詩歌が万葉の古来から一貫して自然の大いなる移ろいのなかのきわめて微細な変化をとらえ、歌いあげてきたことを、万葉集、新古今から芭蕉、蕪村及び茂吉まで数多くの事例を挙げて指摘し、李白や杜甫、ボードレーやランボーと比べて優るとも劣らず、むしろ彼らを凌駕しているとして、日本人の自然に対する鋭敏なる感性が他に例を見ないすぐれたものであることを、わかり易く実証的に論じられました。あいにく学年末試験期間中と重なったこともあり、学生及び教職員約50名と少なかったものの、熱気あふれる講演に聴講者は魅了されました。



▲ 語学文学棟104番講義室「学術講演会」

留学生指導相談室主催

第1回留学生によるリレートーク

— ポーランド事情について —

去る2月2日(水)留学生によるリレートークが留学生指導相談室で開催されました。

この企画は、留学生等から出身国等の諸事情について紹介してもらい、本学学生・教職員に諸外国に対する相互理解を深めることを目的として初めて開かれたもので、今回は、期末試験などと重なったものの20人余の学生・教職員が参加しました。

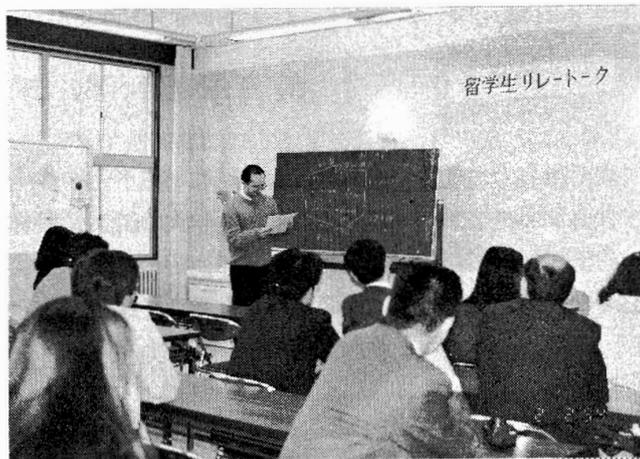
はじめに、ポーランド出身で人文学部聴講生の“デブタ アンドジェイさん”(国費外国人留学生(日本語・日本文化研修留学生))から、ポーランドの地理や歴史、生活習慣等について紹介がありました。なかでも、結婚式の状況や2日間にわたる披露宴(以前は1週間余り行っていたそうです。)について詳しい紹介がありました。

また、日本人は仕事をするとときにスーツを着ているのに驚いたなど日本に来た時の印象についても話がありました。

その後、参加者からポーランドの教育制度、祭りや観光地などについての質問にも丁寧に答えるなど和やかな

うちに終了しました。

相談室では、今後も、順次多くの留学生に出身国の紹介や、日本人学生からの留学体験談をお話ししていただく計画ですので、多くの学生・教職員が興味をもって参加することを期待しています。



▲ ポーランドの生活習慣等を紹介する“デブタ アンドジェイさん”

附属図書館長に瀧澤教授を選出

藤田 宏附属図書館長の任期が平成6年2月19日に満了することに伴う次期附属図書館長候補の選考は、去る平成5年12月17日(金)開催の平成5年度第11回評議会において、附属図書館商議会から次期附属図書館長候補適任者として推薦された3名の本学教授のうちから選考され、教育学部瀧澤 弘教授が選出されました。任期は、平成6年2月20日から2年間。

瀧澤教授は、昭和32年3月富山大学文理学部文学科卒業、同35年3月九州大学大学院文学研究科修士課程を終了、同36年6月鳥取大学学芸学部の助手として採用となり、同39年1月同講師、同42年4月同教養部講師、同年12月同助教授、同49年5月富山大学教養部助教授、同53年4月同教授、平成5年4月同教育学部教授となり、現在に至っています。

なお、この間昭和54年4月から2年間評議員を併任され、さらに昭和62年5月から4年間富山大学学生部長・評議員を併任されています。

担当は、ドイツ語ドイツ文学富山県出身。

(就任の抱負)

ひと昔前まで、図書館と言えば、多くの本があって、世俗を離れた静かな閲覧室で、借り出した本を読み、メモをとるというものでした。いま図書館は、情報化時代に即応してコンピュータを駆使した学術情報の集積・発進基地として、研究・教育上昔日では信じられない重要な役割を持つようになってきました。この機能を発展させることは勿論としても、やはり古き良き時代の図書館の役割も忘れてはならないのでしょうか。前任館長の足跡の上に、大学附属図書館の理想の姿を求めて微力を尽くしたいものと思っています。



次期教育学部附属学校（園）長の改選

教育学部附属小学校長、同中学校長、同養護学校長及び同幼稚園長の任期が、平成6年3月31日で満了することに伴い、教育学部教授会は、去る2月16日（水）に次期附属学校（園）長候補者の選挙を行いました。その結果、附属小学校長に松井政明教授、同中学校長に長井真

隆教授、同養護学校長に宮崎州弘教授、同幼稚園長に岸井勇雄教授が選出されました。

松井政明教授、宮崎州弘教授は新任、他の2名は再任となり、任期は平成6年4月1日からそれぞれ2年間。

教育学部附属小学校長に松井教授を選出

次期附属小学校長の松井教授は、昭和38年3月広島大学教育学部卒業、昭和40年3月広島大学大学院文学研究科修士課程修了、公立学校教員を経て、昭和62年4月富山大学教育学部助教授、平成4年2月教育学部教授となり、現在に至っています。

担当は、社会科教育。

福岡県出身。

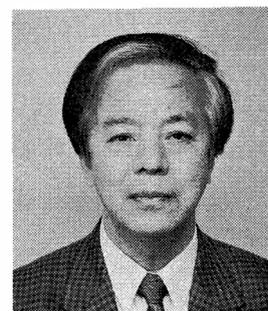
（就任の抱負）

このたび、伝統ある富山大学教育学部附属小学校の校長に選出され、就任することになりました。これまでは、外から見ていた附属小学校を、これからは中に入って、

その経営に携わっていくことを考えると、改めて責任の重さを痛感します。

附属学校は研究校であり、実習校であると言われます。先生方の教育及び研究活動が、沖田副校長をはじめ優秀な教師・職員のチームワークのもとで、できるだけ円滑にすすめられるよう、環境の条件整備に少しでも寄与できればと考えています。

附属小学校は言うまでもなく、学部の先生方のご協力を心からお願い致します。



教育学部附属中学校長に長井教授が再選

次期附属中学校長の長井教授は、昭和26年3月富山大学教育学部第二初等教育科を修了、富山県公立学校教員、富山市教育委員会事務局理事等を歴任後、平成元年4月富山大学教育学部教授となり、平成5年3月31日から附属中学校長、同年4月から教育学部附属教育実践研究指導センター長を併任され、現在に至っています。

担当は、理科教育。

富山県出身。

（就任の抱負）

前附属中学校長加瀬教授の後を受けて学校長に就任し

て、強く感じたことの一つに、生徒たちは大変エネルギッシュだということです。日々の学校生活を積み上げながら、一年間のさまざまなプランを企画し、それをこなしていく行動力は見事なものです。また、指導される先生方の温かい教育観と、際限のない情熱も見事です。このたび再選を受け、再び重荷を感じておりますが、附属学校としての使命を鑑みる所存です。皆様の温かいご支援をお願い申し上げます。



教育学部附属養護学校長に宮崎教授を選出

次期附属養護学校長の宮崎州弘教授は、昭和40年3月東京教育大学教育学部卒業後、昭和46年3月東京教育大学大学院教育学研究科修士課程修了、昭和52年3月同研究科博士課程を単位取得後、戸板女子短期大学講師等を経て、昭和52年7月富山大学教育学部講師、昭和54年6月教育学部助教授、平成元年4月教育学部教授となり、現在に至っています。

担当は、教育学。

東京都出身。

(就任の抱負)

何よりも子どもたちの学習活動がのびのびと展開できることを願っています。そのためには、教員の皆さんの

自由で創造的な教育活動ができるだけ保障されるように努力していきたいと考えています。また、これまでに培われてきた先進的な実践研究がさらに進展し、教育実習校としての役割が十分に果たせるように条件整備のなお一層の充実に努めたいと思っています。

附属学校の運営という重責を負うにはあまりにも微力でありますので、教職員の方々をはじめ関係各位のご理解とご協力の程をお願い申し上げます。



教育学部附属幼稚園長に岸井教授が再選

次期附属幼稚園長の岸井教授は、昭和30年3月東京大学教育学部卒業、昭和34年3月東京大学大学院人文科学研究科修士課程修了、昭和37年3月同研究科博士課程を単位取得後、公立学校教員、文部省初等中等教育局幼稚園教育課教科調査官を経て、昭和63年4月富山大学教育学部教授となり、平成2年4月から附属幼稚園長に併任され、現在に至っています。

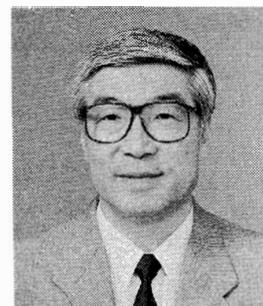
担当は、幼児教育。

東京都出身。

(就任の抱負)

明治20年に創立され107周年を迎える本学附属幼稚園

の25代目の園長として、まだ十分な仕事できていないということで三選されたものと思います。各地からの参観者に、「もし、いいところがあれば、それは先生方の努力の賜物です。足りないところは、それを助けられなかった園長の責任です。」と実感を述べています。文部省研究指定校としての最終年度でもあり、鋭意、力を尽くしたいと思っています。どうかよろしくお願い致します。



退官記念最終講義

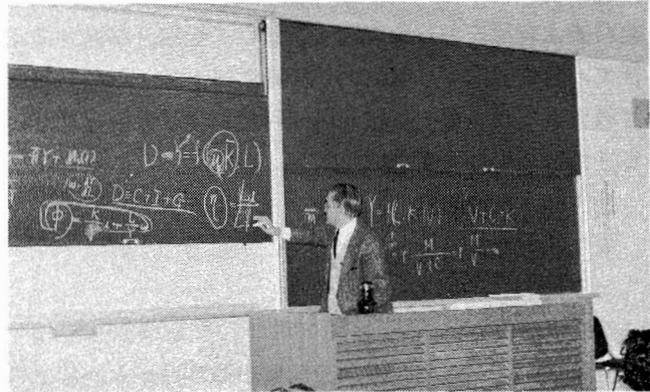
御退官される下記先生の最終講義を多数の学生及び教職員等が終始熱心に聴議しました。

◦ 経済学部 鮎澤 晃三 教授

2月7日(月) 13:15~14:45

経済学部 301教室

「経済理論の展開から現代をみる」

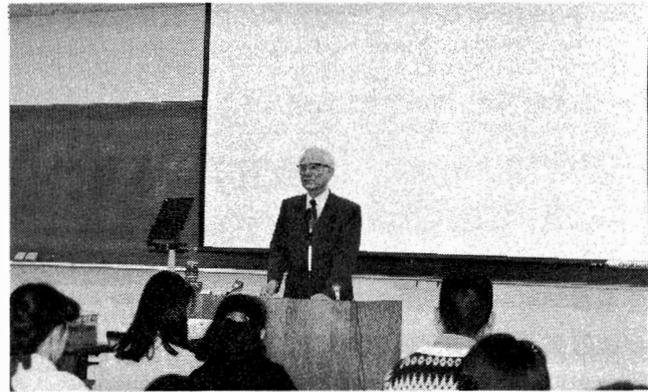


◦ 教育学部 野村 昇 教授

2月8日(火) 15:00~16:00

教育学部 第3棟第19講義室

「化学と教育を考える」



◦ 人文学部 本田 弘 教授

2月14日(月) 10:45~12:15

共通教育棟 201番教室

「私にとっての哲学」

— 研究の跡をふりかえりながら —

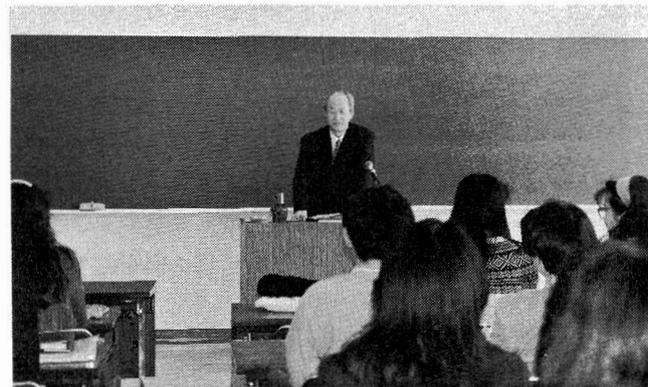


◦ 人文学部 平田 純 教授

2月14日(月) 15:00~16:30

語学文学科棟 104教室

「南日恒太郎先生」



海外渡航者

渡航の種類	所属	職	氏名	渡航先国	目的	期間
外国出張	工学部	教授	坂井純一	アメリカ合衆国	3次元電磁粉子コードによる電流ループ合体の研究	6. 1.17 } 6. 1.30
	理学部	〃	櫻井醇児	フランス	共同研究打合せ	6. 1.20 } 6. 2. 1
海外研修	教育学部	助教授	西川友之	アメリカ合衆国	審判技術研修及びビーチ・バレーボール発達史に関する調査研究	6. 1.11 } 6. 1.24

平成6年度文部省在外研究員派遣予定者の決定

種類	所属	職名	氏名	主たる滞在地及び当該滞在地の属する国名並びに派遣先の機関名	調査研究題目	派遣期間
長期(甲)	人文学部	教授	小川洋通	ニューヨーク (アメリカ合衆国) ニューヨーク州立大学	現代英語の比較・記述的研究	7. 2.28 } 7.12.27
	工学部	助教授	松郷誠一	バークレー (アメリカ合衆国) カリフォルニア大学 バークレー校	生体膜の酸化的損傷の分子レベルでの解析に関する調査研究	6. 5.10 } 7. 3. 9
短期	教育学部	教授	塚野州一	ルーヴァン (ベルギー) 新ルーヴァン大学	児童・青年期における自己意識の発達	6. 9.14 } 6.11.13
	工学部	助教授	袋谷賢吉	デビス (アメリカ合衆国) カリフォルニア大学 デビス校	網膜における神経回路網の研究	6. 7.20 } 6. 9.19
	経済学部	助教授	澤井啓	ニューヨーク (アメリカ合衆国) アメリカ仲裁協会	国際商事仲裁特に知的所有権紛争の解決に関する研究	6. 7.25 } 6. 9.24
若手教官	経済学部	助教授	龍敦弘	シャンペーン (アメリカ合衆国) イリノイ大学	日本及び米国の金融時系列データの計量経済学的分析	6. 8. 8 } 7. 6. 7

平成6年度文部省内地研究員派遣者の決定

所属	職名	氏名	受入れ機関	研究題目	研究期間
理学部	助手	東軒克夫	九州大学有機化学基礎研究センター	置換基効果の研究	平成6年5月2日 } 平成7年2月28日

人 事 異 動

異動区分	発令年月日	氏 名	異 動 前 の 所 属 官 職	異 動 内 容
採 用	6. 3. 1	戸 川 成 弘		助教授（経済学部）
併 任	6. 2. 20	瀧 澤 弘	教 授（教育学部）	附属図書館長・評議員（～8. 2. 19）
退 職	6. 2. 20	林 敏 和	事務補佐員（附属図書館）	平成6年2月19日限り退職した
	”	中 村 繁 之	”（ ” ）	”
	”	高 越 義 一	”（ ” ）	”
	”	杉 森 真 希 子	”（ ” ）	”
	”	松 岡 弘 二	”（ ” ）	”
	6. 3. 1	平 井 徹	技術補佐員（経理部主計課）	平成6年2月28日限り退職した
	”	西 野 英 克	”（ ” ）	”
	”	石 原 学	”（ ” ）	”
	”	吉 迫 文 崇	”（ ” ）	”
	”	宮 本 淳	”（ ” ）	”
併 任	6. 1. 28	米 田 政 明	教 授（工学部）	工学部電子情報工学科長（～6. 3. 31）

学 事

平成6年度

富山大学入学者個別学力検査（前期日程・A日程）が実施される

平成6年度入学者選抜試験の前期日程・A日程の学力検査等が、去る2月25日（金）に実施されました。

試験当日は曇り空の天気となりましたが受験生たちは、オーバーを着込むなど温かい服装で大学の門をくぐりました。また交通機関の乱れもなく、試験開始2時間前にはすでに受験生の姿が見え始め、受付の午前9時には、



▲ 緊張の面持ちで試験開始の合図を待つ受験生（経済学部検査室）

各学部入口の前は受験生でいっぱいでした。

前期・A日程合わせて志願者は3,883人で、そのうち受験したのは、3,514人（欠席者 219人）で、受験率は94.3%でした。また、私費外国人留学生も46人が受験しました。



▲ 最後の試験を修了、肩の荷をおろして帰路につく受験生

平成6年度 入学志願者

学部	学科・課程	平成6年度											平成5年度				備考		
		前期日程			A日程			後期日程			全日程		確定志願倍率						
		募集人員 (人)	志願者数 (人)	倍率 (倍)	前期日程 (倍)	A日程 (倍)	後期日程 (倍)		全日程 (倍)										
人文学部	人文学科	50	209	4.2	—	—	—	15	118	7.9	65	327	5.0	5.2	—	11.1	6.5	平成5年度は、人文学科(上段)語学文学科(下段)として募集	
	国際文化学科	27	94	3.5	—	—	—	10	52	5.2	37	146	3.9	5.8	—	9.2	6.8		
	言語文化学科	63	212	3.4	—	—	—	25	193	7.7	88	405	4.6	—	—	—	—		
	学部計	140	515	3.7	—	—	—	50	363	7.3	190	878	4.6	5.5	—	9.9	6.7		
教育学部	小学校教員養成課程	70	98	1.4	—	—	—	30	287	9.6	100	385	3.9	2.7	—	9.8	4.8		
	中学校教員養成課程	—	—	—	38	155	4.1	—	—	—	38	155	4.1	—	5.0	—	5.0		
	養護学校教員養成課程	14	38	2.7	—	—	—	6	83	13.8	20	121	6.1	3.4	—	14.8	6.9		
	幼稚園教員養成課程	21	82	3.9	—	—	—	9	132	14.7	30	214	7.1	4.5	—	20.3	9.3		
	情報教育課程	教育情報コース	12	31	2.6	—	—	—	6	59	9.8	18	90	5.0	1.3	—	8.1		3.6
		環境情報コース	8	14	1.8	—	—	—	4	66	16.5	12	80	6.7	—	—	—		—
	学部計	125	263	2.1	38	155	4.1	55	627	11.4	218	1,045	4.8	2.9	5.0	11.7	5.5		
経済学部	昼間1主ス	経済学科	114	323	2.8	—	—	—	31	282	9.1	145	605	4.2	3.9	—	11.8	5.6	
		経営学科	86	303	3.5	—	—	—	24	209	8.7	110	512	4.7	3.9	—	11.2	5.6	
		経営法学科	70	423	6.0	—	—	—	20	254	12.7	90	677	7.5	6.8	—	12.1	8.0	
		計	270	1,049	3.9	—	—	—	75	745	9.9	345	1,794	5.2	4.6	—	11.7	6.2	
	夜間1主ス	経済学科	2	7	3.5	—	—	—	4	25	6.3	6	32	5.3	6.0	—	10.3	8.8	
		経営学科	2	15	7.5	—	—	—	5	46	9.2	7	61	8.7	8.0	—	14.2	12.4	
		経営法学科	2	9	4.5	—	—	—	5	34	6.8	7	43	6.1	11.5	—	16.2	14.9	
		計	6	31	5.2	—	—	—	14	105	7.5	20	136	6.8	8.5	—	13.8	12.2	
	学部計	276	1,080	3.9	—	—	—	89	850	9.6	365	1,930	5.3	4.7	—	12.0	6.5		
理学部	数学科	30	118	3.9	—	—	—	7	36	5.1	37	154	4.2	4.6	—	5.3	4.7	生物圏環境科学科は、平成6年度から募集	
	物理科学科	37	121	3.3	—	—	—	10	69	6.9	47	190	4.0	3.6	—	6.4	4.2		
	化学科	30	110	3.7	—	—	—	8	40	5.0	38	150	3.9	3.0	—	7.5	3.9		
	生物学科	33	134	4.1	—	—	—	7	54	7.7	40	188	4.7	3.4	—	8.5	4.4		
	地球科学科	27	108	4.0	—	—	—	5	48	9.6	32	156	4.9	3.9	—	18.2	6.2		
	生物圏環境科学科	20	55	2.8	—	—	—	5	33	6.6	25	88	3.5	—	—	—	—		
	学部計	177	646	3.6	—	—	—	42	280	6.7	219	926	4.2	3.6	—	8.3	4.6		
工学部	電子情報工学科	87	274	3.1	—	—	—	27	182	6.7	114	456	4.0	4.5	—	5.3	4.7		
	機械システム工学科	67	322	4.8	—	—	—	21	119	5.7	88	441	5.0	4.0	—	7.5	4.9		
	物質工学科	54	333	6.2	—	—	—	17	272	16.0	71	605	8.5	6.5	—	13.0	8.0		
	化学生物工学科	56	295	5.3	—	—	—	18	175	9.7	74	470	6.4	4.2	—	10.3	5.7		
	学部計	264	1,224	4.6	—	—	—	83	748	9.0	347	1,972	5.7	4.7	—	8.5	5.6		
合計	982	3,728	3.8	38	155	4.1	319	2,868	9.0	1,339	6,751	5.0	4.4	5.0	10.3	5.8			

(注) 募集人員には、「推薦入学、帰国子女・社会人特別選抜」の募集人員(若干名を除く。)を含まない。

平成6年度 富山大学入学者選抜私費外国人留学生入学志願者数

区 分		志 願 者 数		
		平 成 6 年 度	平 成 5 年 度 (参 考)	
人 文 学 部	人 文 学 科	9	9 (人文学科)	
	国 際 文 化 学 科	4		
	言 語 文 化 学 科	2	2 (語学文学科)	
	計	15	11	
教 育 学 部	小 学 校 教 員 養 成 課 程	1	0	
	中 学 校 教 員 養 成 課 程	1	1	
	養 護 学 校 教 員 養 成 課 程	0	0	
	幼 稚 園 教 員 養 成 課 程	0	0	
	情 報 教 育 課 程	教 育 情 報 コ ー ス	3	1
		環 境 情 報 コ ー ス	0	
計	5	2		
経 済 学 部	昼 間 主 コ ー ス	経 済 学 科	13	19
		経 営 学 科	27	48
		経 営 法 学 科	0	2
		計	40	69
理 学 部	数 学 科	0	0	
	物 理 学 科	0	0	
	化 学 科	0	0	
	生 物 学 科	0	0	
	地 球 科 学 科	0	0	
	生 物 圏 環 境 科 学 科	0	—	
計	0	0		
工 学 部	電 子 情 報 工 学 科	7	12	
	機 械 シ ス テ ム 工 学 科	8	13	
	物 質 工 学 科	2	4	
	化 学 生 物 工 学 科	2	1	
	計	19	30	
合 計		79	112	

平成6年度 富山大学国際交流事業基金による各種事業の採択

第1種海外派遣事業(B)

部 局	氏 名	職 名	派 遣 期 間	訪 問 先	研 究 課 題
教育学部	奥村 義雄	教 授	6. 7. 1～6. 7. 14 (14日間)	スタンフォード大学 (アメリカ合衆国)	先端技術の発展と地域社会への影響
教育学部	清水 建次	教 授	6. 8. 21～6. 8. 30 (10日間)	ポーランド バイロイト大学 (ドイツ)	希土類金属間化合物のNMR
理学部	松島 房和	助教授	6. 6. 19～6. 7. 2 (14日間)	N I S T 研究所 (アメリカ合衆国)	遠赤外レーザー分光学

第2種外国人研究者の招へい事業(B)

招 へ い 研 究 者		招 へ い 目 的	招 へ い 期 間	申 請 教 官		
氏 名	所属・職名	研 究 テ ー マ		部 局	氏 名	職 名
A. V. バナジ	マサチューセッツ 工科大学準教授 (アメリカ合衆国)	講演, 学術討論, 研究交流 情報の経済学	6. 6. 30～6. 7. 4 (5日間)	経済学部	新里 泰孝	助教授

外 国 人 来 訪 者

氏 名 (国 籍)	本国における 所属機関・職名	来 学 目 的	本学受入れ先	期 間
Peter K. Cheo (アメリカ合衆国)	コネチカット大学 教 授	ゼミナール学術討論 及び講演	理学部・教授 高 木 光司郎	6. 2. 17) 6. 2. 21

『モンリオールに滞在して』

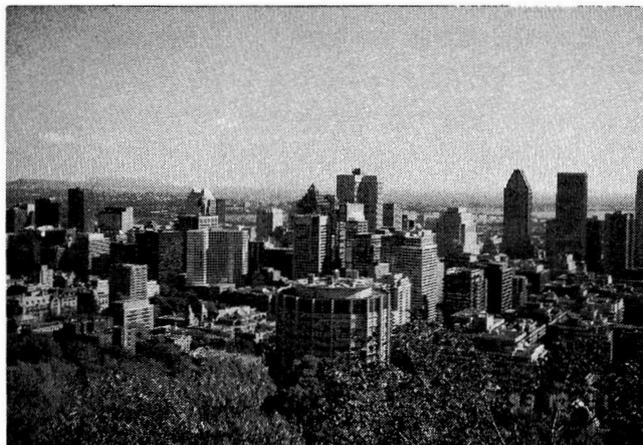
工学部助教授 高瀬 均

1993年の3月中旬より9か月間余り、文部省の在外研究員としてモンリオールのマックギル大学に滞在した。同大学での滞在の目的は、Pulp and Paper Research CentreのT. G. M. Van De Ven教授の下で「液中微粒子の分散制御に関する研究」を行うことであった。

モンリオールは、人口300万人弱のカナダ第2の都市であり、カナダ南東部のケベック州最大の都市である。

また、フランス語を公用語とする都市としては、パリに次いで大きな都市として知られる。英語は市内では十分通じるが、車で1時間程郊外へ向けて走ると、もうかなり通じにくくなる。北緯45°付近に位置するモンリオールは、冬の寒さが厳しい。しかし、人々は逆にこの寒さを利用して、様々なウィンタースポーツを楽しんでいる。特にアイスホッケーは盛んで、昨年地元のプロチームであるモンリオールカナディアンズが北米プロリーグ(NHL)に優勝した時などは、街中が大騒ぎとなった。冬が過ぎて5月中旬になると気温がぐんぐん上り、6月中旬には一気に夏の気配となる。この後約3か月間は、気温が日中でも20~25℃で快晴の日が続き、湿度も低く、太陽の光輝く快適な季節となる。街路樹のカエデも大きな緑の葉をたわわに付け、市内の景観が一年の内で最も美しくなる。

私のモンリオールでの生活は、到着翌日からの私の



▲ ダウンタウンの眺め

(手前の円柱ビルがマックギル大学医学部の建物、高層ビル群後方にセント・ローレンス川が見える)

家族の住むための家探しから始まった。これについてはVan De Ven教授の手配により、いくつかの候補が挙げられていた。最初に行ったのが、大学から徒歩5分ほどの15階建てのアパートであった。マックギル大学はモンリオールのダウンタウン近くにあり、この辺りのアパートは高層のものが多く、空き部屋を見回りながら廊下を歩いていると、アパートに入った時から感じていた匂いがやけに気になりだした。今までに嗅いだことのない、強い香辛料のような匂いだ。その時、突然目の前のドアが開き、頭からすっぽり頭巾をかぶり、目だけを出した全身黒づくめの女性が出てきた。彼女は無言のまま私を一瞥して、横を通り抜けていった。一瞬ドキッとしたが、よく考えるとこれまでアパート内で見た住人の何人かは、アラブ系の顔立ちをした人々であった。アパートの管理人に聞いたところ、住人の半分近くがアラブ地域や東欧の出身者であるという。他にも何か所か見て回ったが、どうも気に入ったものが見つからない。そのうちに夕方となり、私はホテルに帰ろうとバスに乗った。ぼんやり窓から外を眺めていると、まわりの人の話し声が耳に入ってくる。それらはフランス語、英語、中国語、その他にも身元不明の言語が聞こえてくる。家探して半日近く英語とフランス語の混じった説明を聞かされ、今度はそれプラス2カ国語である。さすがに聞く気になれず、すぐに4カ国語カルテットの話し声は、私にとってただの雑音でしかなかった。

モンリオールの人口の7割がフランス系、1割が英国系、残り2割が他のヨーロッパ系、アジア系、アラブ系、アフリカ系などであると言われる。しかし、それは郊外までを含む広い地域の平均的割合であり、市の中心部の人口比はそれとは異なっている。私には、フランス系、英国系以外の人口が3割程度を占めているように思われた。彼等は、フランス語、英語のいずれかある程度話せるものの、普段親しい相手には母国語を使っているようだ。まさに、人種、言語の“melting pot”である。

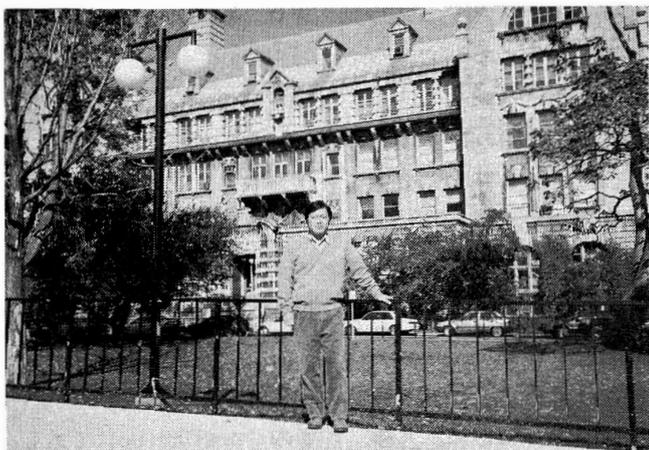
到着5日目にして私達の住むアパートがようやく見つけ、腰を落ち着けることができた。結局、ダウンタウン近くの人口密集地は避け、大学からバスで20分程のウ

エストマウント地区となった。同地区は主に英語が使われる地区であり、緑豊かな閑静な住宅地である。アパートのペントハウスにある洗濯室の窓から外を眺めると、街の中心部にある標高230mのモン・ロワイヤル山のなだらかな山腹が迫ってくる。山腹から山頂付近には数多くのミリオンエアーが並び、夕方になるとそれらの家々に灯が点り始める。薄暗いモン・ロワイヤル山の中に、それらが光のスロープのように見えて大変美しい。聞くところによると、カナダの元首相のマルローニーやトルドーもその地域に住んでいるらしい。カナダの近年の歴代の首相にはケベック州出身の者が多く、現首相のジャン・クレチアンもケベック州出身である。時たま燃え上がるケベック州のカナダからの独立運動と、同州で大半を占めるフランス系住民が、カナダ全土では約25%を占めるにすぎない少数派であることを考えると、この政治状況はなかなか興味深いことである。

マックギル大学は、1821年創立のカナダの最も古い大学の一つである。学部数18、学生数30,000人の総合大学であり、学生の教育は英語で行われている。これは、マックギル大学創立の最初の目的が、ケベック州周辺に住む英国人子弟の教育を目的としていたためである。このため、教育は当然英語で行われ、それが現在まで続いているのである。モントリオール市内の人種の“melting pot”ぶりは大学内も同様で、教官の出身地もカナダ、アメリカをはじめ、ヨーロッパ、アジア、オセアニア諸国など様々である。学生の出身地は、世界120カ国に及ぶという。Van De Ven教授も、その名から推察できるようにオランダ人である。彼の専門分野はコロイド及び界面化学であるが、その研究範囲は広い。近年「Colloidal Hydrodynamics」を著すなど、流体中の微粒子の運動及

び微粒子を含む流体の挙動などの分野にも、数多くの業績を残している。彼は大変多忙であり、タフである。私が滞在した9か月余りの間に、ドイツ、日本、イギリス、アメリカを訪れ、広いカナダ国内を駆け巡っていた。

モントリオール市内では、その人種の多様さなどにより、街を歩いても目に見えないかすかな緊張感が感じられる。しかし、それは数か月間だけ住むことになった異邦人の、その土地に対する不慣れから生ずる感情かもしれない。私の接したモントリオールの人々は、概して親切でおおらかであった。国際色豊かな大学の研究室の人々、気さくなアパートの隣人たちなどは、いずれもそうであった。ケベック州の車のプレートには、“Je me souviens”と書いてある。私の買った中古のアメリカ車のプレートにも、その文句はあった。これは直訳すれば“私は忘れない”という意味であり、“先祖から受け継いできた文化的遺産を大切に子孫に伝えよう”と言うメッセージらしい。私にとっての“Je me souviens”の意味は、もちろん様々な思い出を私にくれた、モントリオールの街、人々を忘れないということだ。



▲ マックギル大学構内にて
(後ろは工学部の建物)

関 係 法 令

(規 則)

- 人事院規則 9-11 (俸給表の適用範囲) の一部を改正する人事院規則 (人事院 9-2-19) 2. 16
- 人事院規則 9-8 (初任給, 昇給, 昇給等の基準) の一部を改正する人事院規則 (同 9-8-22) 2. 16
- 人事院規則 9-55 (特勤手当等) の一部を改正する人事院規則 (同 9-55-30) 2. 28

(告 示)

- 支出官事務規程第21条に規定する外国貨幣換算率を定める等の件 (大蔵32) 2. 8
- 出納官吏事務規程第16条に規定する外国貨幣換算率を定める等の件 (同33) 2. 8

職 員 消 息

<住所変更>

事務局

経理部経理課

情報処理係長 太田 則春

教育学部

助教授 武藏 博文
(障害児教育)

経済学部

助教授 柳川 洋一
(比較経済論)

助教授 酒井 富夫
(政策科学)

理学部

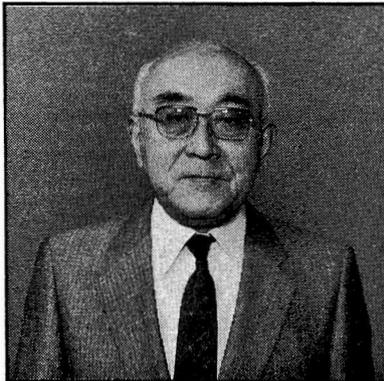
助教授 中村 省吾
(生物圏機能)

附属図書館

事務補佐員 山田 知恵
(閲覧係)

訃 報

富山大学名誉教授 酒井康彦氏逝去



本学名誉教授酒井康彦氏が、平成6年2月17日に逝去されました。享年82歳。

同氏は、昭和9年3月京都帝国大学文学部哲学科を卒業後、同11年5月同大学文学部大学院を退学し、同年5月富山県立砺波中学校教諭、同15年6月富山県立富山高等女学校教諭を経て、同20年5月富山師範学校教授に就任され、同24年5月富山師範学校が富山大学に包括されたことに伴い、同年6月富山大学教育学部助教授、同36年8月同大学教育学部教授となり、同52年4月1日をもって停年退官されました。

さらに、退官後も引き続き、平成3年3月まで同大学教育学部非常勤講師として勤務し、また、昭和55年4月から昭和63年3月まで洗足学園魚津短期大学教授として教育原理及び倫理学の教鞭を執られました。

この間、永年にわたって、教育哲学及び教育史の研究と教育に従事されるとともに、終始熱心に多くの学生の育成に尽力されました。

研究面においては、わが国の「歴史的形成」としての教育の重要性を強調され、戦後教育の反省、批判を試み、民主的社会での個人的及び社会的形成として教育に力点を置くアメリカ教育一般の一面を論じ、自由と同時に協同の原理が今後の教育の核心とならねばならないことを論究されました。

さらに、スピノザに共鳴していたゲーテに関心を持たれ、従来多くの人を試みた自然主義的教育論、当時のフランス革命を背景とする混乱の中でのゲーテの社

会思想と社会変化に対する態度などについて、考察・批判をされ、「ゲーテの教育理念」といいうるものを検討し、追求されました。

また、昭和23年1月から同30年12月までの8年間にわたり、富山師範学校小学校主事、或いは富山大学教育学部附属小学校校長兼同附属幼稚園長を併任し、教員養成上の重責を担うとともに、富山県下の初等教育の進展に指導的な役割を果たし、当時の戦災により消失した校舎、園舎の再建に努力されるなど、戦後の窮乏と混乱の中での同附属学校、園の学校教育研究管理体制の確立に尽くされました。

また、昭和40年度及び同41年度には、教科用図書検定調査審議会調査員として教科書検定の調査に精励されました。

さらに、同氏は、昭和41年2月附属図書館長、同42年評議員、同44年5月学生部長、昭和50年3月教育学部長を歴任されるなど、大学における研究と教育、特に、教員養成並びに大学の管理運営に精励・尽力し、本学の充実発展に大きく貢献されました。

これらの功績により、昭和52年4月富山大学名誉教授の称号を授与され、さらに同58年11月勲三等旭日中綬章を受章されました。

ここに同氏の御功績を偲び顕彰するとともに、御冥福を祈り、謹んで哀悼の意を表します。



平成5年度第7回附属図書館商議会（1月18日）

（審議事項）

- (1) 図書購入費の追加配分について
- (2) その他

平成5年度第3回公開講座委員会（1月19日）

（議 題）

- (1) 平成6年度公開講座の実施計画について
- (2) その他

平成5年度第4回入学試験実施委員会（1月20日）

（審議事項）

- (1) 専門委員会委員について
- (2) 平成6年度富山大学入学者選抜学力検査場の実施要項等について

平成5年度第13回評議会（1月21日）

（報告事項）

- (1) 学生部報告
- (2) その他

平成5年度第3回留学生指導相談室運営委員会（1月25日）

- (1) 相談業務等の実施状況について
- (2) 相談室の整備状況等について
- (3) 平成4年度自己点検評価報告書に記載の指摘事項及び改善事項等について
- (4) その他

平成5年度第8回事務協議会（1月27日）

（議 題）

当面の諸課題について

平成5年度第3回情報処理センター運営委員会

（1月27日）

（議 題）

- (1) キャンパス情報ネットワークについて
- (2) 平成7年度概算要求について
- (3) 自己点検・評価報告書について
- (4) その他

平成5年度第3回国際交流委員会（1月28日）

（審議事項）

- (1) 平成5年度富山大学国際交流事業基金第3種（外国留学への奨学事業）学資金受給者の取扱いについて
- (2) 平成6年度富山大学国際交流事業基金各種事業の募集要項（案）について
- (3) その他

平成5年度第3回自己点検評価委員会（1月28日）

（議 題）

- (1) 平成4年度自己点検評価報告書における問題点及び改善事項について
- (2) 平成5年度自己点検評価について
- (3) その他

平成5年度第5回教養教育委員会（1月31日）

（審議事項）

- (1) 平成5年度教養教育実施経費の執行について
- (2) 平成6年度授業時間表（案）について
- (3) 平成6年度非常勤講師任用計画（案）について
- (4) 平成6年度以降の教養教育における非常勤講師の資格審査について
- (5) 「教養教育における教官負担のルール化」について
- (6) その他

主 要 行 事

本 部

- 1月4日 仕事始め
- 6～7日 人事関係事項説明聴取
- 7日 大学入試センター試験監督者説明会
- 7～11日 在来生合宿研修（於：志賀高原）
- 11日 成人者記念品贈呈
- 12日 部課長会議
安全管理検討会
- 13日 第1回富山地域リカレント教育推進事業富山
大学運営委員会
低温液化室講演会（講師 岩手大学教授 能
登宏七）
- 14日 第5回教養教育委員会管理運営専門委員会
- 15～16日 平成6年度大学入試センター試験
- 17日 第4回自己点検評価委員会教育活動専門委員
会
東海・北陸地区国立学校施設整備打合せ会
（於：名古屋大学）
- 18日 第4回自己点検評価委員会研究活動等専門委員
会
- 19日 第3回公開講座委員会
第3回富山大学国際交流委員会学術交流部会
第1回低温液化室自己点検評価委員会
第4回キャンパスプラン検討会
人文学部推薦入学試験
- 20日 第4回自己点検評価委員会管理運営専門委員
会
第4回入学試験実施委員会
第3回事務電算化委員会学務専門部会
- 21日 第7回部局長懇談会
第13回評議会
北陸地区国立学校事務電算化実務者会議（於：
金沢大学）
健康診断（寒中水泳）
- 22日 寒中水泳
- 24日 第9回教養教育委員会企画専門委員会
平成6年度富山大学入学検定料徴収（2／1
まで）
平成6年度富山大学入学願書受付（2／1まで）

- 25日 第6回国際交流委員会留学生部会
第3回留学生指導相談室運営委員会
第1回留学生会館運営委員会
- 26日 公務員採用試験に関する講演会
- 27日 第8回事務協議会
文部省人事関係事務処理状況調査
国際交流会館設置検討会
第3回職業指導担当者会議
- 28日 第3回富山大学国際交流委員会
第1回国際交流推進方策に係る検討会
第3回自己点検評価委員会
- 29～30日 スキー講習会（共済組合主催）
- 31日 第5回教養教育委員会
第9回教養教育委員会実施専門委員会
政府調達設備3件入札締切

人 文 学 部

- 1月7日 学部予算委員会
- 12日 教授会
教授会（人事）
人文科学研究科委員会
- 17日 係長会議
- 24日 学部情報処理委員会
- 25日 係長会議
- 26日 教授会
教授会（人事）
- 28日 学部職業補導委員会

教 育 学 部

- 1月7日 附属中学校第3学期始業式
- 10日 授業開始
附属小学校，附属養護学校第3学期始業式
- 11日 附属幼稚園第3学期始業式
- 12日 学部教務・学生生活合同委員会
学部教務委員会
教授会
人事教授会
- 14日 教育学研究科準備委員会

- 17～21日 平成 6 年度附属小学校・附属中学校入学願書
受付
- 19日 学部将来計画委員会
- 26日 教育懇話会
- 27日 附属小学校入学者第 1 次選考（発育検査）
- 28日 係長連絡会
- 30日 附属中学校入学者第 1 次選考（学力検査）
- 31日 紀要編集委員会

経済学部

- 1月 7日 学部学生生活委員会
- 10日 授業再開
- 12日 学部教務委員会
人事教授会
教授会
学部留学生委員会
- 17日 大学院経済学研究科委員会小委員会
- 19日 大学院経済学研究科委員会
学部施設整備委員会
- 26日 学部教務委員会
人事教授会
教授会
- 31日 係長会議

理学部

- 1月 6日 学部教務委員会（持ち回り）
- 7日 学部学生生活委員会
- 8日 国立 4 大学（北信越地区）理学部長懇談会
（於：富山県職員会館）
- 12日 教授会
理学研究科委員会
人事教授会
学科長会議
- 19日 学部自己点検評価委員会
学科長会議
- 21日 学部学生生活委員会
- 26日 学部教務委員会

工学部

- 1月12日 教授会
研究科委員会
専任教授会

- 19日 学部運営委員会
博士課程実施対策委員会
- 20日 外国人留学生委員会
学部図書委員会
- 24日 学部教務委員会
- 26日 教授会
研究科委員会
専任教授会
- 28日 学部図書委員会
- 31日 外国人留学生委員会

附属図書館

- 1月11日 係長連絡会
- 18日 第 2 回「書香」編集委員会
第 7 回附属図書館商議会
第 1 回附属図書館自己点検評価委員会

水素同位体機能研究センター

- 1月 6日 第 1 回水素同位体機能研究センター
自己点検評価委員会

地域共同研究センター

- 1月24日 地域共同研究センター運営委員会
企業見学と産学交流会（於：富山日本電気株）
- 28日 第 7 回大学院生教育講座

主 要 行 事

本 部

- 1月4日 仕事始め
- 6～7日 人事関係事項説明聴取
- 7日 大学入試センター試験監督者説明会
- 7～11日 在来生合宿研修（於：志賀高原）
- 11日 成人者記念品贈呈
- 12日 部課長会議
安全管理検討会
- 13日 第1回富山地域リカレント教育推進事業富山
大学運営委員会
低温液化室講演会（講師 岩手大学教授 能
登宏七）
- 14日 第5回教養教育委員会管理運営専門委員会
- 15～16日 平成6年度大学入試センター試験
- 17日 第4回自己点検評価委員会教育活動専門委員
会
東海・北陸地区国立学校施設整備打合せ会
（於：名古屋大学）
- 18日 第4回自己点検評価委員会研究活動等専門委員
会
- 19日 第3回公開講座委員会
第3回富山大学国際交流委員会学術交流部会
第1回低温液化室自己点検評価委員会
第4回キャンパスプラン検討会
人文学部推薦入学試験
- 20日 第4回自己点検評価委員会管理運営専門委員
会
第4回入学試験実施委員会
第3回事務電算化委員会学務専門部会
- 21日 第7回部局長懇談会
第13回評議会
北陸地区国立学校事務電算化実務者会議（於：
金沢大学）
健康診断（寒中水泳）
- 22日 寒中水泳
- 24日 第9回教養教育委員会企画専門委員会
平成6年度富山大学入学検定料徴収（2／1
まで）
平成6年度富山大学入学願書受付（2／1まで）

- 25日 第6回国際交流委員会留学生部会
第3回留学生指導相談室運営委員会
第1回留学生会館運営委員会
- 26日 公務員採用試験に関する講演会
- 27日 第8回事務協議会
文部省人事関係事務処理状況調査
国際交流会館設置検討会
第3回職業指導担当者会議
- 28日 第3回富山大学国際交流委員会
第1回国際交流推進方針に係る検討会
第3回自己点検評価委員会
- 29～30日 スキー講習会（共済組合主催）
- 31日 第5回教養教育委員会
第9回教養教育委員会実施専門委員会
政府調達設備3件入札締切

人 文 学 部

- 1月7日 学部予算委員会
- 12日 教授会
教授会（人事）
人文科学研究科委員会
- 17日 係長会議
- 24日 学部情報処理委員会
- 25日 係長会議
- 26日 教授会
教授会（人事）
- 28日 学部職業補導委員会

教 育 学 部

- 1月7日 附属中学校第3学期始業式
- 10日 授業開始
附属小学校，附属養護学校第3学期始業式
- 11日 附属幼稚園第3学期始業式
- 12日 学部教務・学生生活合同委員会
学部教務委員会
教授会
人事教授会
- 14日 教育学研究科準備委員会

- 17～21日 平成6年度附属小学校・附属中学校入学願書
受付
19日 学部将来計画委員会
26日 教育懇話会
27日 附属小学校入学者第1次選考（発育検査）
28日 係長連絡会
30日 附属中学校入学者第1次選考（学力検査）
31日 紀要編集委員会

経済学部

- 1月7日 学部学生生活委員会
10日 授業再開
12日 学部教務委員会
人事教授会
教授会
学部留学生委員会
17日 大学院経済学研究科委員会小委員会
19日 大学院経済学研究科委員会
学部施設整備委員会
26日 学部教務委員会
人事教授会
教授会
31日 係長会議

理学部

- 1月6日 学部教務委員会（持ち回り）
7日 学部学生生活委員会
8日 国立4大学（北信越地区）理学部長懇談会
（於：富山県職員会館）
12日 教授会
理学研究科委員会
人事教授会
学科長会議
19日 学部自己点検評価委員会
学科長会議
21日 学部学生生活委員会
26日 学部教務委員会

工学部

- 1月12日 教授会
研究科委員会
専任教授会

- 19日 学部運営委員会
博士課程実施対策委員会
20日 外国人留学生委員会
学部図書委員会
24日 学部教務委員会
26日 教授会
研究科委員会
専任教授会
28日 学部図書委員会
31日 外国人留学生委員会

附属図書館

- 1月11日 係長連絡会
18日 第2回「書香」編集委員会
第7回附属図書館商議会
第1回附属図書館自己点検評価委員会

水素同位体機能研究センター

- 1月6日 第1回水素同位体機能研究センター
自己点検評価委員会

地域共同研究センター

- 1月24日 地域共同研究センター運営委員会
企業見学と産学交流会（於：富山日本電気㈱）
28日 第7回大学院生教育講座

編 集 富山大学庶務部庶務課
富山市五福3190
印刷所 あけぼの企画株式会社
富山市住吉町1丁目5-18
電話(24)1755(代)